



坂本 拓望ちゃん(大冢)
H16.7.21生

「一緒に走れる目を
楽しみにしています。」



原田 結衣ちゃん・麻衣ちゃん
H15.1.11生・H11.10.16生(美の浜)

「ケンカもするけど、
仲よし姉妹です。」



松浦 丈治ちゃん(大冢)
H14.11.6生

「シヨベルカーが大好きです。
良い子に育ってね!」



「姉達のおもちゃにならないよう、
たくましく!」
大本 瑚夏ちゃん(笠岡)
H16.7.26生



「健やかに育ってね」
和田 晃ちゃん(大井南)
H16.7.5生

「宝物」はその人にとって、かけがえない人(子ども)であったり、可愛いペットであったり、他人には思いもつかない「物」であったりすると思います。そんな宝物の写真に一言メッセージを添えて、まちづくり推進課まで送ってください。

展覧会のご案内

もりたになんじんし
「森谷南人子のすべて」

10月16日(土)~11月23日(火)

笠岡出身の日本画家、森谷南人子の画業を紹介する特別展です。



〒714-0087
笠岡市六番町1-17
Tel.63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

「秋の山野を歩いていると、ふと目にとまるのは、昔ながらの風情である。そうした過ぎし日を思い浮かべながら、筆をすすめてみた」という言葉が冒頭に添えられている。

後行者が開いたとされる大野寺は奈良県にあり、室生寺の西の大門とも呼ばれている。対岸の巨大な弥勒磨崖仏や樹齢二百年ともいう枝垂桜などが知られているが、竹喬は門前から堀越しの鐘楼を取り上げて描いている。

画塾に入ってから間もない頃、竹喬は仲間たちと京都から奈良、吉野、高野を越えて申本近くまで歩いてまわったことがあった。無謀ともいえる無銭旅行である。その後も吉野などへは度々訪れており、室生寺周辺の寺をまわった事もあったようで、この挿絵も晩年のスケッチがもとになっていると思われる。しかし、「天皇の世紀」の挿絵に相応しい明治にまつわるものと考えた時、そうした若い日々の思い出が竹喬にこの景色を取り上げさせたのであろう。



「大野寺」

小野竹喬 作
朝日新聞「天皇の世紀」挿画
昭和43年10月6日掲載
13.5×12.7cm

竹喬美術館の光彩 23

今月の表紙

10月17日、すっかりと晴れた秋空の下、「笠岡地区 住民のふれあいと健康づくり体育祭」が開催されました。

笠岡地区の約1000人が参加。それぞれ地区ごとの13チームに分かれて、キャタピラー競争やパン食い競走などの競技で、気持ちのよい汗をかきました。ハッスルプレーやフラインプレーが飛び出すと、みんなで拍手。子どもから大人までが一体となって楽しむ姿がとても印象的でした。

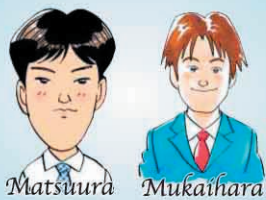
なお、優勝は川北地区でした。

係から

友好握手都市五周年で来笠されたコタバルとモービロングの皆さんに、日本の芸術を体験していただくとう、茂平の吉備焼の窯元で陶芸体験をしていただきました。

皆さん、陶芸は初めての経験だったようで、苦戦しながら湯飲みなどを完成させていました。感想を聞いてみると、「難しかったけどすごく楽しかった」と答えてくださいました。

これをきっかけにもっと日本を好きになっていただけたらうれしいです。
(松)



発行日/平成16年11月1日
発行/笠岡市役所
編集/まちづくり推進課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
Tel.69-2110

印刷所/株式会社 正文社印刷所 ☎66-1687

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス: machizukuri@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。

100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています